

令和4年度 丹波篠山黒豆情報

第1号 令和4年7月27日 丹波篠山市・JA丹波ささやま・NOSAITひょうご丹波篠山事務所・丹波農業改良普及センター

*丹波篠山市内6カ所に調査定点を設置しています。

【生育】(令和4年7月25日丹波篠山市定点調査結果より)

	主茎長(cm)	主茎節数(節)
令和4年	49.9	13.1
平年(過去10カ年平均)	37.0	11.0
平年比	135%	119%
令和3年(参考)	44.6	12.1

- 主茎長は平年(過去10ヶ年平均)比135%、主茎節数は平年比119%で平年を大きく上回りました。
- 6月中旬から7月上旬まで、最高気温及び最低気温ともに平年よりもかなり高く推移し、周期的な降雨もあったため、生育が進んでいます。
- 播種時期により、ほ場間及びほ場内での生育差が大きくなっています。

【病害虫】(令和4年7月25日丹波篠山市定点調査結果より)

	立枯性病害 株率(%)	カメムシ類 虫数/株	ノメイガ類 被害株率(%)	サヤムシガ 被害株率(%)	アブラムシ類 頭/小葉	ハダニ類 頭/小葉
令和4年	0.00	0.03	0.83	1.67	0.00	0.00
平年(過去10カ年平均)	0.58	0.01	1.42	11.36	0.03	0.00
平年比	0%	500%	58%	15%	0%	0%

- 茎疫病などの立枯性病害の発生は見られません。
- カメムシ類の発生は少ないものの(120株数4頭の発生)、平年を上回っています。
- サヤムシガ、ノメイガ類の発生は平年に比べて少ない傾向です。
- ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺は、6月下旬から確認されており、一部の地域で発生が多く見られます。
- アブラムシ類、ハダニ類は発生が見られません。

【今後の対策】

1 適期灌水

- ① 梅雨明け（6月28日ごろ※速報値）以降、平年よりも気温が高い傾向で推移し、土壌が乾燥状態となっていました。7月以降はまとまった降雨が周期的にあり、現状は土壌水分が維持できています。今後、気象情報に注意し、開花期以降（8月上旬）は特に水分を必要とするため、晴天が続く場合は土壌が乾燥する前に灌水しましょう。
- ② 日中の暑い時間帯の灌水は避け、夕方または早朝に実施します。なお、長時間の滞水は茎疫病発生リスクの増大や根傷みする恐れがあるため、水は溜めたままにしないよう注意しましょう。

市内に土壌水分センサーを設置し、携帯端末のアプリを利用して確認ができます。ライン等でも配信予定ですので、灌水判断の参考にしてください。

2 排水対策

排水性の悪いほ場では、湿害による生育遅延や根腐れ、立枯性病害の発生など助長する恐れがあります。まとまった降雨があった際は、排水溝の手直しを行い、表面水を速やかに排水しましょう。

3 追肥の施用

生育後半の窒素を補い、生育を促すために追肥を行いましょう。

追肥量の目安（慣行型） 8月中旬 NK化成2号 40kg/10a 施用
（JA丹波ささやま「丹波篠山黒豆栽培こよみ」より）

4 倒伏防止

強風による倒伏を防ぐため、支柱を立てるなど株を保護しましょう。

5 病害虫防除

（1）虫害防除

開花期から莢が伸長・肥大する8月中旬～9月中旬は、莢を加害する害虫に注意し、定期的に薬剤防除を実施しましょう。（カメムシ類、フタスジヒメハムシなど）

（2）病害防除

茎疫病など立枯性病害対策のため、ほ場の排水対策を徹底するとともに、薬剤防除を実施しましょう。できるだけ発病前または発病初期に株全体に十分かかるように散布し、発病株はほ場外に持ち出し処分しましょう。

実とり（成熟させて収穫）とえだまめでは使用可能な農薬の種類や時期が異なるため、栽培こよみを確認し、ラベルに記載の内容に従い防除を行いましょう。

【参考：気象データ※丹波篠山市消防本部気象データ参照】

